

## 第14回 東京低地河川活用推進協議会 議事要旨

日時：平成28年2月19日（金）10:00～11:45

場所：総合区民センター6F サブ・レクホール

### (1) 第13回協議会における議事要旨の確認

○内容について事前確認により了承。

### (2) 「自己責任を基本とした船着場利用ルール」平成27年度社会実験結果

- ・「荒川の運航のみでは魅力が不足」という意見に関して、そこで止まらずに次に進める発想が欲しい。例えば、堀切菖蒲園は江戸時代からの名所だが、観光資源としては活かされていない。地域の魅力を活かす手立てが欲しい。
- ・岩淵～小松川のはとバスツアーは、地場野菜を味わったり、知水資料館を訪れるなど、荒川魅力を活かした内容となっており、大変よい企画だったと思う。
- ・江戸川区の新川は、修景事業によって新川千本桜が整備されている。4月には荒川千本桜と連携した桜シンポジウムが開催予定であり、この江戸情緒を感じられる場所を活用して、舟運の活性化につなげてほしい。
- ・近年、都立高校のボート部が荒川下流部をよく利用している。練習には伴走艇も必要であり、伴走艇の搬入や、乾舷が低い手漕ぎボートが利用できる船着場を増やして欲しい。
- ・さいたまトリエンナーレ2016 プレイメントで使用されている船は、写真で見ると非常にユニークな印象を受けたが、船の特徴など教えてほしい。
- ・ベースは小型のプレジャーボートで、アーティストがデザインしている。舞鶴で製作され、イベント等で全国を回っている船だと聞いている。
- ・小型船が接岸しにくいという意見があったが、小松川リバーステーションは、岸壁の一部を階段型に改良すると良いのではないかと。ポンツーンほど費用も掛からないと思う。
- ・社会実験期間中にトラブルや事故がなかったことは大変良かったと思うが、事務局はどのようなトラブルを想定していたのか。
- ・乗下船時の川への転落や転倒などの直接的なトラブルや、鍵の閉め忘れにより一般の人が船着場に入り、あやまって川に落ちるといったような事故を想定していた。
- ・アンケートの乗船理由で、18%を示している「その他」はどのような回答だったのか。
- ・「その他」の回答は、花火見物やロックフェスイベントといった、運航形態に関する回答が多い。
- ・問題として紹介された、許可無しでの利用や船着場内でのテント設置・飲食は、見方を変えれば、プレジャーボートが、こういう場所を求めているということである。
- ・災害時には、数の多いプレジャーボートに協力してもらうことも必要であり、そのためには平常時から防災船着場を利用してもらう事は重要だと思う。船着場周辺の河川敷は、バーベキューなどもっと積極的に開放して欲しい。
- ・社会実験の結果を聞いて、防災船着場は観光面でも有効であるという印象を受けた。このような形で利用の活性化につなげていくことが、本来の防災目的にも有効と考える。
- ・事業者へのヒアリングで「夜間照明等の設置」の要望があがっているが、社会実験は昼間だけの実施であるが、なぜそのような意見が出たのか。
- ・実験は昼間に実施したが、事業者からは花火大会等で夜間に使いたいという要望が出ている。
- ・事業者から、広報のため社会実験の公表を早くしてもらいたいとの意見が出ているが、H28年度以降も継続する方針なら、今後毎年実施する事を広報してもよいのではないかと。

### (3) 船着場利用社会実験の今後の進め方(案)

- ・ 今後、自由使用に向け社会実験を進める上で、重視している課題は何か。
- ・ 鍵の長期貸与は初めての試みなので、確実に施錠してもらえるかが課題と考えている。
- ・ ステップ4では、自由使用に向けて鍵開放の何が問題なのかを、しっかり検証して欲しい。
- ・ これまでは船着場の利用者を対象にアンケート等の検証を行ってきたが、今後は船着場の周辺を利用している方々を対象を広げて意見を聞いていく段階にきていると考える。また、船着場の公的利用との調整も課題として大きい。
- ・ 鍵の開放については社会的な認知が必要であり、そろそろマスコミ対応も考える時期にきていると思う。
- ・ 「船着場利用条件」は、船着場利用者の責務、利用条件、利用方法に分けて示した方が良い。また、「利用者の安全確保は自己責任で」等、自己責任での利用の原則を書くべきである。
- ・ 通年開放で利用が考えられる冬期は、社会実験の対象にしないのか。
- ・ 事業者の意見でも、冬期の利用希望が無かったので、冬期に実験は考えなかった。
- ・ 冬期の利用も検討が必要と思うが、現段階では現在の期間で実施し、利用者から冬も利用したいという意見が出た場合に検討するという事でよいと考える。

### (4) その他(紹介事項)

- ・ 東京都の扇橋閘門の改修という話を聞いているが、長期の工事は舟運事業への影響が大きい。予定が明確にならない段階でも、改修の予定があるということは早く広報した方が良い。
- ・ ご指摘頂いた点も考慮しながら、優先順位を判断して進めていきたい。

### 今後の予定

- ・ 次回の協議会は、平成28年度に開催予定である。日程については、年度明けに調整させて頂く。

以上